

令和4年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22072	事業名	リニア中央新幹線亀山駅整備基金積立事業		評価分類	A1	
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					担当部署	
	施策体系	施策の大綱	03:交通拠点性を生かした都市活力の向上		予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	05:広域的な交通拠点性の強化			款	12:諸支出金	
		施策の方向	01:リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進			項	01:基金費	
重点プロジェクト	-		目	03:リニア中央新幹線駅整備基金費				
事業期間	H 8 年度	~	R - 年度	主な根拠法令等	-			

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	リニア市内停車駅周辺の整備には、先行開業区間の事例からも多額の費用が必要となる。県期成同盟会における県内駅位置候補市でもある本市は、駅誘致を見据え、駅周辺整備費用の財源確保を計画的に図る必要がある。	市	リニア市内停車駅周辺の整備を展開する際の財源が一定程度確保できている。	リニア市内停車駅周辺の整備に活用できる財源として、計画的にリニア中央新幹線亀山駅整備基金の積み立てを行う。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	○リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立	○リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立	○リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立	○リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立
	活動実績 (計画通り実施できたか)	リニア中央新幹線亀山駅整備基金に52,704千円を積み立て、令和4年度末積立残高を約19億円とした。			
計画額	事業費	50,000千円	52,704千円	50,000千円	50,000千円
	国・県支出金				
	地方債				
	その他	2,200千円	4,737千円	2,200千円	2,200千円
	一般財源	47,800千円	47,967千円	47,800千円	47,800千円
決算額	事業費		52,704千円		
	国・県支出金				
	地方債				
	その他		4,737千円		
	一般財源		47,967千円		
①期間内事業費(R4-7)		200,000千円	②期間外事業費(R8-)	-	①+②総事業費

(令和4年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	52,704千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	リニア中央新幹線亀山駅整備基金積立額	成果	千円	計画値	50,000	50,000	50,000	50,000
				実績値	50,000			
	リニア中央新幹線亀山駅整備基金残高	成果	億円	計画値	19	19.5	20	20.5
				実績値	19			
				計画値				
				実績値				

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
A	リニア中央新幹線亀山駅整備基金への計画的な積立により、積立目標額である20億円に対し、9割を超える基金積立を行うことができ、リニア中央新幹線の市内停車駅周辺の整備事業を展開するための財源確保に繋げることができた。
十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
市	リニア市内停車駅周辺の整備を展開する際の財源が一定程度確保できている。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	リニア中央新幹線市内停車駅の設置に合わせ、リニア駅を生かしたまちづくりを早期に進めていくための財源として、引き続き着実かつ計画的な基金積立を行っていく必要がある。また、名古屋以西のリニア中央新幹線のルートや駅位置の決定を見据えながら、駅位置や規模により費用も異なるため、基金積立目標額の見直しについても、引き続き検討していく必要がある。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性			
	継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する			
	改善・見直し内容			
	<table border="1"> <tr> <th>令和5年度で対応する(した)もの</th> <th>令和6年度以降で対応するもの</th> </tr> <tr> <td>基金積立目標額(20億円)の達成に向け、引き続き着実に積立を行っていく。また、リニア中央新幹線の整備進捗状況に注視しつつ、先行開業区間の関係自治体事例の研究や駅候補地における調査検討を進めることで、それらを基に基金積立目標額の見直しについての検討を深める。</td> <td>名古屋以西のリニア中央新幹線のルートや駅位置の決定を見据えながら、駅位置や規模により費用も異なるため、基金積立目標額の見直しを行う。</td> </tr> </table>	令和5年度で対応する(した)もの	令和6年度以降で対応するもの	基金積立目標額(20億円)の達成に向け、引き続き着実に積立を行っていく。また、リニア中央新幹線の整備進捗状況に注視しつつ、先行開業区間の関係自治体事例の研究や駅候補地における調査検討を進めることで、それらを基に基金積立目標額の見直しについての検討を深める。
令和5年度で対応する(した)もの	令和6年度以降で対応するもの			
基金積立目標額(20億円)の達成に向け、引き続き着実に積立を行っていく。また、リニア中央新幹線の整備進捗状況に注視しつつ、先行開業区間の関係自治体事例の研究や駅候補地における調査検討を進めることで、それらを基に基金積立目標額の見直しについての検討を深める。	名古屋以西のリニア中央新幹線のルートや駅位置の決定を見据えながら、駅位置や規模により費用も異なるため、基金積立目標額の見直しを行う。			

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
【履歴】	成果判定	A		
	事業展開	継続(現状維持)		

1次評価者	政策部 政策推進課 交通政策GL 服部 任之
最終評価者	政策部 政策推進課 課長 大平 守